

「ウム、何や火事か」

「何を寝呆けてるのんやいな、サア彼れを仕んか」

「彼れて何や」

「あも搗くのやがな」

「ア、彼奴か。そや〜忘れてた、ウム寒いなア。もう一晩延したらどふや」

「何云ふてるね、片付き事や搗いて仕舞ひなはれ」

「ア片付き事や、搗いて仕舞ひなはれか。……ウオーホホ寒む……」

鼻に突き出されて、表へ出ましたが、寒い時は手の行き處が定てます、兩脇の處へ手を密着けて

「フホー——寒いなア、(ポーン——鐘の音)オツホホ……(ゴツン——露路の戸で頭を打つ)ア、痛ア

毒性に頭を打たしよつた……長屋のど阿呆奴、これな處へ大きな門入れやがつて……何が爲に斯んな

露路に門を入れさらすのやろ。ついぞ此長屋へ盗人の這入た事が有るかい。チョイ〜盗人が出よる

位や。門なら外から入れときやがれ……」キユウ——(戸を開ける)——どん——ばらばらばつた〜

〜——どん——龜吉とん疊が濟んだら此方え湯を廻しとくなはれ——徳松とん雜巾絞りまよか——

「ナア。横町の播磨屋はんや、彼様にして仰山の若い者に掃除さして、チャンと祝儀遣つて芽出度う

正月をしやはる内も有るし、夜中に起きて鳴の尻撲く内も有るし、世間は種々やなア。ハーツクシヤ

ン、ハーツクシヤン。ア、不可ん、風邪引くワ。早ふ遣たる……(ドン〜〜〜)へエお頼申しま

す。竹内さんは此露路と違ひますかいナ、申し鳥渡頼んまつせ……(ドン〜〜〜)」

「ハア竹内は此家だつせ……。誰方……」

「俺や……(ハツと口に蓋をする)へエ賃搗屋でやす。鳥渡どふぞお開け……」

「そないに叩いてやつたら戸が破れまんがナ。今開けます……」

「鳴はん、成るたけ近所へ聽える様に、齒のゆるんだ下駄引づつてゴロンガラン。ゴロンガラン。

「阿呆、……此方へ這入り。大きな聲で俺やなんて……賃搗屋が俺やてな事云ふか」

「晩ふ歸て叩く時の癖がついたアる物やさかい、ツイうっかり云ふたんや」

「ドキツとしたがナ、氣イ附けんか」

「オウわれ横町の木村はんへ往け。それから後藤はんへ廻てなア、大てい眞田はん邊りで逢ふやろ」

「コレ、何云ふてるのや、まだ誰ぞお連れが有るのんか。」

「俺一人や。棟梁は一人やけれど釜が二本出たアるので、釜の指圖をしてるのや」

「そんなシヨム無い事さんと、早ふ這入りんか」

「……オウ行くで。路が狭い依て氣イ附けよ……それジツクリ來いえ〜か……辰われ提灯持てるのん

ばら先へ出て見せたらんかい。足元照らしたれ足元を……オイ行こ……ヨ。ヨ。ヨ。ヨ。ヨ。ヨ。ヨ。ヨ